

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい（月200円程度）
5月 14人 13,000円
4月 32人 49,800円

第22回 ふじの花まつり

2013 5/17(金)・19(日) 鶴岡市藤島体育館

ふじの花まつり	11:00-14:30	1000	ふじの花まつり	11:00-14:30	1000
ふじの花まつり	15:00-18:30	1000	ふじの花まつり	15:00-18:30	1000
ふじの花まつり	19:00-22:30	1000	ふじの花まつり	19:00-22:30	1000

ふじの花の見える 5月中旬～6月初め

第22回「ふじの花まつり」が17日（金）～19日（日）、藤島体育館で開かれます。ふじの盆栽を1000鉢以上集め、会場いっ

ぱいにふじの花の甘い香りが漂います。また、呈茶やミニコンサート、魅力いっぱいの物産販売など盛りだくさんの内容でお楽

しみただけます。最終日の19日の夜には盆栽展会場で「藤見の宴」が開催されます（前売り券2千円）。

親子がともに育ちあう

「鶴岡市母子保健計画」第4次を策定

鶴岡市は第4次となる「鶴岡市母子保健計画」を策定し、7日の市議会厚生常任委員会に説明しました。

これまで第1次は平成9年、第2次は14年、第3次は20年に策定し、今回の第4次は30年度を目標年度に25年度か



らの計画となっており、基本理念に、「親子がともに育ちあひ、心豊かに健やかな成長ができるまちづくり」を掲げ、基本的な方向として、

「妊娠・出産が安心してできる」「障害があっても健やかに成長、発達できる」「病気を未然に防ぐための保健医療サービスや地域の支援がある」等を定めています。

相談機能の充実

第3次計画の評価については、妊婦健康診査の助成回数が国の施策で平成21年2月からこれまでの5回から14回に拡充され、経済的負担が軽減されたこと、平成22年4月に総合保健福祉センター開設にともない相談機能の充実が図られたこと、若年や未婚などのハイリスク妊婦には「産褥婦

等育児不安に関する連絡制度（平成15年2月）により産科医療機関との連携が図られ、早期発見、早期支援につながることでできたこと、産褥期全乳児訪問指導は、生後2ヶ月までを対象に99・6%の実施率を図ったことなどが上げられています。

一方で、「母性健康管理指導事項連絡カード」を知っている人の割合は37・6%で100%の目標に達せず、第4次では50%の目標としました。

この「カード」は妊娠中及び出産後の女性労働者が主治医から受けた指導事項及び必要な措置を事業主に伝える母体の保護と雇用の確保を図るためのものです。

総合保健福祉センターの「すこやか相談窓口」を知っている人の割合は50・9%で、これも100%の目標に達せず、今後も周知を図るとしています。

集団接種から個別接種へ

定期予防接種は高い接種率を維持していますが、25年度からはBCGなどこれまでの集団接種から「かかりつけ医」による個別接種へ切り替え、本人の都合に合わせて接種率を高めるようにするとしています。

子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌は25年度から定期接種となりました。

藤島駅笹花線は今年度2億円の予算化
藤島地域県道改良促進期成同盟会の総会が31日予定され、町内会長の改選に伴い同盟会の役員も交代します。

15日の役員会では、市当局から都市計画道路藤島駅笹花線の説明があり、平成24年度までの支出は約4千万円で、25年度は約2億円が予算化され、用地補償が進められるとのこと。

総工事費は約13億円で平成31年度完成予定とのこと。

長沼地域の県道東沼長沼余目線の改良整備では、300万円について、25年度に県の調査で2500分の1の図面化がされ（予算300万円）、次年度に概略の設計に入ります。

出生率や婚姻率が低い

鶴岡市の出生数は22年度で1024人、出生率（人口千人対）は7・5で県7・4より上回っていますが全国8・5より下回っています。

婚姻率（人口千人対）は22年度4・1で、県4・4、全国5・5より下回り、減少傾向です。

若者が結婚できるよう、雇用の安定と経済力を高め、小中学生の通院無料化など子ども医療費無料化の拡大や保育料の負担軽減など子育て支援が大きな課題です。

高橋甚治郎氏の高甚式農機具(1)

高橋健太郎氏寄贈。
藤島町駅前通の新町に
旧高橋甚治郎商店があ
ります。

大正後期から昭和に
かけて手広く農機具販
売を行なった商店です。

先日孫にあたる高橋

健太郎さんから、保存
していた高甚式農機具
といわれたものの処置
について、高橋恵都子
さん(駅前)を通して
相談がありました。

早速、穂積文化記念
館館長・市教委・郷土
研究サークル員が調査
しました。



高甚式碎土機

「高甚式碎土機」と
コピーされている碎土
機、「製作地 山形県藤
島町 高橋甚治郎」と焼
印された馬犁(町制施
行の大正11年以降製
作)、「金牌受領」の焼
印などがありました。

健太郎氏も近年まで
同商店を経営しており
3代にわたった商店で
す。

初代の高橋甚治郎氏
について『藤島町史下
巻・1972刊』は一
項を起こしています。

同時代に農機具発展
に貢献した人に今間壯
太郎、秋山好市らがい
ますが、高橋氏は余り
知られていません。

そこで『藤島町史下
巻』の要旨、当日同行
し使用したことのある
鈴木重雄さん(八色木)
などの一文を掲載しま
す。

なお『藤島町史下巻』
の編集委員は、長沼源
作・小林大隅・今野み
つ子ら7人ですが、今

原発輸出、これが安倍首相 の経済外交のスタートか！

「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

連休中に安倍首相は
ロシアや中東諸国を訪
問し、しめくくりの記
者会見で、「今回の歴訪
は本格的な経済外交の
スタートだ」と外遊の
成果を強調してみせた。

しかし、その1つがな
んと、トルコ・サウジ
アラビア・アラブ首長
国連邦への日本の原発
輸出である。原発は1
基あたり数千億円にも
なるという巨大事業、
大企業は手ぐすねひい
て待っている。首相は
「原発には、中東諸国
から、日本の最高水準
の技術、そして過酷な

野みつ子さんは、甚治
郎氏の息女で下町に嫁
した健太郎氏の叔母で
す。(青山、つづく)

事故を経験した中での、
安全性への強い期待が
寄せられた」とも述べ
た。

しんぶん赤旗 5月9
日付は、参院選・都議
選勝利のための日本共
産党第7回中央委員会
総会での志位委員長報
告を掲載している。そ



攻撃の方向を変えたが

先に彼が首相になっ
た時は、憲法ができて
60年、だから時代に合
わなくなつた、古くな
つた憲法だから変えな
くてはならない、との
キャンペーンだった
が。

▼決して古くはないし
時代に合わなくなつた
ものでもない。国際的
にいい憲法だと認めら
れている日本の規範だ
から、これに合わない
ものがあればそれを変
えればいいという正論
に負けたのだ。

▼だから今回は、占領
時代のアメリカ(今も
同じように居すわって
いるが)からの押しつ
け憲法だから、自分達
で憲法を創ろうと攻撃
の方向を変えてきた。

毎回のようにメディア
と一緒に大声で言うが
これもウソである。

▼なぜなら、憲法がで
きた時から「九条をな
くせ」「憲法を変える」

のなかで3つの政治的
対決点をあげている。
アベノミクス・原発・
アメリカいいなり政治
である。原発について
は「破たんした再稼働
・原発推進の道か、即
時原発ゼロの政治決断
か」としている。「強い
期待が寄せられた」ほ
どに安全なのか。多く
の国民はノーである。
増え続ける汚染水、そ
して外部流失の危機的
状況、今なお15万人の
避難民などなどである。
なにが安全か！日本は
再び「死の商人」の道
を歩むのか。

と言ってきたのは実は
アメリカなのだからだ。
「九条があるから自分
達の言うようにならない
いから困る」というの
を自民党の政策に入れ
たのか、はたまた安倍
の時の密約か？

▼日本はアメリカの不
沈空母だと言つたあの
首相は「私は憲法を変
えるために首相になつ
たのだ」と言つたのは、
ロンとヤスの会談の後
だったと記憶している。
これは単にロンへの個
人的な忠誠を表したも
のだろう。

▼外国の要求で憲法を
変えるなんてあり得な
いことです。憲法を守
り暮らしに生かすこと
が大事なんです。規範
に合わないものを正す
べきなんです。憲法を
変えたい彼等のの狙い
は世界に信頼されてい
る第九条なんですから。
▼多くの党から折衷案
が出てきますから惑わ
されないようにしよう
ぞ。全く憲法を変える
必要はありませんとネ。

(石川)

斑雪野へ最上水嵩こぼれそう

工藤 博司

もう五月が来るとい
うのに、高い嶺だけ
でなく、山麓にはまだ
雪が多く残っている。

平野部はそれほどな
いが、山間部は集落
の地にも残雪が多く、
河川の水量もいつに
なく豊かだ。川はま
さに雪解きである。

先日、科織り(こぢり
り)で有名な温海関川
地区を訪ねたが、山
際や田畑にも厚い雪
が残り、春いまだし
の様相であった。

とりわけ最上川は満
々と水を湛え、あち
こちに雪を残した斑
雪野をゆったり曲る
様はまさに母なる大
河の趣きがある。と
ころにあつては急に
波を荒立てて走り、
ときには、川岸を超
えて、水嵩が溢れそ
うである。

この水量があつてこ
その農業であり、生
活水であろう。それ
にしても、TPP参加
による田畑の荒廃は、
河川の水量にどのよ
うな変化を与えるか
不安がよぎる。



(画・加藤貞雄)

